

県少年の主張大会、地区英語弁論大会に参加して

県少年の主張最北ブロック大会に出場した山口さんの感想を紹介します。

社会の一員として

山口さん

少年の主張大会コンクールに参加して、自分の考えを自分の言葉で伝えることができたことのうれしさを感じました。夏休み中から文章を考えて練習を重ねてきてよかったと思いました。他の参加者の主張もそれぞれの強い思いやメッセージを感じ、とても心を動かされたもの、自分事として受け取れるものもありました。自分のことを自分で伝える楽しさ、大切さを学びました。



次に 8 日（火）、村山市民会館で行われた地区英語弁論大会に出場した渡辺さん、古瀬さんの感想を紹介します。

The Ig Nobel Prize

Mr. Watanabe

最初に、僕は英語弁論大会に出場することにあまり積極的ではなく、他の友達に譲るつもりでいました。ですが、先生方や友達の後押しで出場することを決めました。はじめは、何をすればいいのか、何を練習すればいいのかが、全然分からなかったのですが、夏休みの期間は手探りで練習していましたが、先生のアドバイスで自分の理想に近づくことができました。結果は、入賞とはなりませんでした。とても貴重な経験ができたので良かったです。今回の経験を大切にしていきたいです。



Nakamura Tetsu

Mr. Furuse

今回、英語弁論大会に参加して、普段の学校生活だけではできない、貴重な経験ができました。練習を始めた夏休みは、題材を全く読むことができず、読めてもイントネーションなどを間違えていました。しかし、そこでくじけることなく何度も練習を重ねると今回のように完璧な状態で本番に臨むことができました。このことから、挑戦することの価値を学ぶことができたので、学習や学校生活でも、たくさん挑戦していきたいです。



幸運なことに、私は 3 人の発表を会場に聞きに行くことができました。

3 人とも、審査員や多くの聴衆を前に、緊張や不安に負けることなく、堂々と発表していました。出場しようと思った「勇気」と、積み重ねた練習＝「努力」を、これからの人生の財産にしてください。

心晴さん、偉月さん、壮大さん、お疲れ様でした。

【文責：校長 工藤雅史】